



「こんにちは 市長です」

9月15日号

新型コロナ感染拡大の第一波で緊急事態宣言が出された時は国も地方もてんてこ舞いした。国はかなり大胆なコロナ対策を行った。そのあおりを受けて太田市でも予算は膨らみ、この9月議会に提出した予算案は1150億3046万9千円になった。平時だと800億円である。当然、事務量は増し職員はコロナ対策のために奮闘した。マスク不足だった4月、62万枚を調達し、全戸配布などを行った。10月には「プレミアム金券」を発行する。議会終了後、広報などで皆さんにお知らせするが、50%のプレミアムが付く。つまり、1万円で1万5千円分の金券をお渡しするというお得感のある事業である。12億円の予算を組んだ。

この議会で監査委員から令和元年度決算の「審査意見書」が出された。最初に財政力指数が出てくる。1.029である。話がお堅くなるけど、市の財政状態を監査委員の目からのぞいてもらった。この数字は全国でもめったにお目にかかれない数字で、県内12市では唯一太田市だけ。財源に余裕があることの証明である。全国平均は0.9以下、スバルが1を超える数字のけん引役になっている。もう一つ大切な財政が健全であるかの判断だが、実質赤字、連結赤字はなし、危険な状態ではない。返済額の大きさを示す実質公債費比率（25.0が危険）は5.4で、「返済額以下での借り入れ」が効いていると思っている。また、将来への負担をみる将来負担比率（350.0が危険）23.4で基準を大幅に下回っている。

コロナで経済はゆがんだ。しかし、国や民間の支援がある施策は工夫して事業化すべきと思っている。「チャンスは貯蓄できない」のである。（9/3記）